

男子マラソン

● 2回目で初快挙

男子フルマラソンは、天理市在住の会社員、山本芳弘さん(奈良陸協)が2時間21分22秒で初優勝した。初参加した前回は2時間26分45秒の4位で、2回目での快挙となった。

「昨年は前半から飛ばしすぎた。今回は抑え気味に走りコントロールできたのが勝利につながった。2時間20分は切りたかったが、優勝できて素直にうれしい」と語る。

今回、大阪マラソン出場の疲れもあり、折り返し点の天理市までトップ集団の中で様子を窺がった。白川ダムの登りでトップに3人に絞られると、他の二人の息遣いをみて勝負に出た。後は独走でゴールを切った。同市在住ということもあり、沿道でわが子らの声援も大きかったようだ。

添上高校陸上部出身。3年の時に国体の5kmで出した14分11秒43は奈良県高校記録として今も破られていない。実業団のトヨタ紡織ではハーフと駅伝で活躍し、2005年の世界ハーフマラソン日本代表にも選ばれる実力の持ち主。実業団引退後は市民ランナーとして走りを楽しむ。

「2年後に関西で行われるワールドマスターズのハーフマラソンに出場して、優勝を目指したい」と張り切っている。



女子マラソン

● 大会新で連覇

大会前に「優勝する」と宣言した通り、圧倒的な走りで山口遥さん(32)=神奈川県=が大会2連覇を達成。

「昨年より練習ができていたので大丈夫だと思っていた。コンディションもバッチリだった」と会心の勝利だった。

スタートから飛び出して最後までトップを譲らなかった。2016年は競技場付近の41kmで大学生に追い抜かれ準優勝に甘んじた。「油断した。レース経験の浅い大学生に追い抜かれて情けない思いをした」と振り返り、「きょうはレース終盤に集中力が切れなかった」と万全のレース運びでVを手繰り寄せた。

トレーニングからレース運び、そして苦い経験と「これまでのすべてが身につけてきた」と充実した表情だ。

女子10kmで優勝した兼重志帆さん(神奈川県)や山口さんは女子市民ランナーの憧れの存在で目標となっている。

来年、山口さんが3連覇を達成すれば市民ランナーとしての輝きはさらに増すことだろう。

男子は平田治さん(奈良陸協)の3連覇があるが、女子は初めてとなる。

山口さんの挑戦に期待。



男子10*。

●力強い気持ちで「奪取」

男子10kmは、田原本町在住の福島太郎さん(大和精機)が29分47秒の大会新記録で2連覇を果たした。

前回は初参加で29分56秒の大会新で優勝。

その記録をわずか1年で自ら更新した。「他の大会の連戦で疲れもあったが、確実にVを取りに行く強い気持ちで臨んだのがよかった」と話す。

東京農大、高野山大を経て現在、天理市の自動車メーカー「大和精機」の競走部に在籍し、社会人ランナーとして活動する。

「10kmを28分台で走るのが目標。そのスピードでコンスタントに走れる力をつけていずれはフルのトップランナーと戦える選手を目指す」ときっぱり言う。



女子10*。

●力強い走りで大大会新

市民ランナーとして注目を集める兼重志帆さん(30)=神奈川県=が初出場でいきなり優勝した。昨年の覇者で今大会でも2位となった藤本華奈さん(大阪府)が「どうしても会いたかった」という憧れの人。スタート直後にトップに躍り出て、32分32秒の大会記録で頂点に立った。

毎月、各種大会に出場し、次々と結果を残し市民ランナーの間では著名な存在。実業団選手に迫る実力があり、5000mは日本選手権大会出場資格の15分40秒に迫る。

初めての奈良マラソンは「楽しかった。登ったり下ったりと飽きの来ないコース」と話し、鹿の帽子を被ってゴールイン。遊び心もたっぷりだ。

高校時代は陸上部で400m、800mの中距離でインターハイに出場した経験を持つ。

現在は働きながら毎日10~15kmを週6日のトレーニングをこなす。

練習は「力の源」と仕事とのバランスを取っている。

本格的なマラソンにも挑戦しており、2020年1月の大阪国際女子大会に出場する予定だ。

